



POWERCABファミリー

POWERCAB 112

POWERCAB 112 PLUS

POWERCAB 212 PLUS

パイロット・ガイド ▶

内容

仕様.....	3	インパルス・レスポンス.....	16
概要.....	4	Powercab Editソフトウェアについて.....	16
背景.....	4	USBオーディオ.....	16
スピーカー.....	4	ASIOドライバー (Windowsのみ).....	16
アンプ.....	4	USB Audioモード.....	17
特徴.....	5	グローバル設定(Global Settings).....	17
Powercab 112 Plus & 212 Plus - トップパネル・コントロール.....	6	Input 2 Monitorモード.....	19
Powercab 112 Plus & 212 Plus - リアパネル・コントロール.....	7	Input 2/AUX USBモード.....	19
Powercab 112 - リアパネル・コントロール.....	8	セットアップ例.....	20
スピーカーモデル vs キャビネットモデリング.....	9	L6 LINK.....	23
フルレンジ・フラットレスポンスとキャビネットモデリング/インパルス・レ スポンス方式.....	9	PowercabのL6 LINKを介したHELIXの使用.....	23
室内アンプ・サウンドを出力するスピーカー・モデリング方式.....	10	L6 LINKセットアップ例.....	23
Powercabスピーカー・モデル.....	10	AES/EBU.....	24
ユーザー・プリセット.....	12	MIDI.....	24
プリセット・パラメーター.....	12	MIDI プログラムの変更.....	24
		MIDI CC.....	24

注記:

Line 6, Line 6商標, Powercab, Helix, POD及びPOD Farmは米国及び他の国々で登録されたYamaha Guitar Group, Inc.の商標です。
Apple, Mac, OS X, macOS, iPhone, iPad, iTunes, Apple Inc.及びiTunesは米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。iOSは米国および他の国々で登録されたCiscoの商標です。Appleは、この機器操作または、安全規制規準に関する一切の責任を負いません。Windows は米国及び他の国々で登録された Microsoft Corporation の商標です。YouTubeはGoogle, Inc.の商標です。

シリアル番号: _____

仕様

POWERCAB仕様			
特徴	 Powercab 112	 Powercab 112 Plus	 Powercab 212 Plus
ワット	250W RMS	250W RMS	500W RMSトータル、ステレオ・アンプ
スピーカー寸法	(1x) 12インチ モノ	(1x) 12インチ モノ	(2x) 12インチ ステレオ/デュアル モノ
スピーカータイプ	Eminence® Ceramic Coaxial Custom	Eminence Ceramic Coaxial Custom	Eminence Neodymium Coaxial Custom
コンプレッションドライバー	(1x) Celestion® CDX 1-1010	(1x) Celestion CDX 1-1010	(2x) Celestion CDX 1-1010
周波数特性	70Hz~20kHz	70Hz~20kHz	70Hz~20kHz
ポート	フロント	フロント	リア
最大出力音圧レベル	125dB (C) SPL @ 1m	125dB (C) SPL @ 1m	131dB (C) SPL @ 1m
XLR ダイレクト・アウト	1 (モノ)	1 (モノ)	2 (ステレオ)
コンビネーション入力ジャック	1	2	2
L6 LINK™, AES/EBU	いいえ	入力と出力	入力と出力
USBオーディオ・インターフェース	いいえ	はい	はい
ユーザー・プリセット	いいえ	はい (128)	はい (128)
画面	いいえ	2インチ LCD	2インチ LCD
スピーカー・モデル	6	6 (+ 6以上 ファームウェアv2.0による)	12
ユーザー・インパルス・レスポンス対応	いいえ	はい (48kHz、24ビット、モノ、2048サンプル)	はい (48kHz、24ビット、2048サンプル モノ、1024サンプル ステレオ)
MIDI IN/OUT	いいえ	はい	はい
キックスタンド	はい	はい	はい
重量	15.08kg (33 lb, 4 oz)	16.10kg (35 lb, 8 oz)	21.59kg (47 lb, 10 oz)
寸法	567 x 462 x 305 (mm) 22.3 x 18.2 x 12 (in)	567 x 462 x 305 (mm) 22.3 x 18.2 x 12 (in)	711 x 537 x 305 (mm) 28 x 21.1 x 12 (in)

概要

Line 6® Powercab®アクティブギター・スピーカーシステムをお買い上げいただきありがとうございます。Powercabファミリーのこの**パイロット・ガイド**にはPowercabシステムの特徴と機能が詳細に記載されています。

Powercabは、コンパクトで軽量のアンプを求めるデジタルギターアンプ・モデルのユーザーに向けて新たに設計された、パワードスピーカー・ユニットです。フラットな周波数応答と本物のギターキャビネットと同様のリアルなサウンドとフィーリングの両方を提供するシステムです。さらに、ステージ上でもスタジオ内でも直感的かつ簡単にセットアップと操作ができるように設計されています。

同梱品: Powercab 112、Powercab 112 PlusまたはPowercab 212 Plus アクティブギター・スピーカーシステム、IEC電源ケーブル、パイロット・ガイド、アンプトップ・クイックスタートガイド。

背景

一般的に、モデリングギアをステージやスタジオで使用する場合、ユーザーには2つの選択肢があります。従来のアンプに接続して主にそのアンプモデルをエフェクトとして使用する、あるいはスピーカーキャビネットのエミュレーションを使い、フルレンジモニタースピーカーを通して演奏するかのどちらかです。後者のオプションの方がよりシンプルで、録音したりPAから流すのには丁度良いかもしれませんが、ただ録音するためののように感じられ、部屋でアンプの前に立って演奏する時のような感覚や空気感が得られないこともあります。Powercabファミリーの製品はこのギャップを埋めるため、ユーザーが必要に応じて使い方を選択できるように設計されています。

スピーカー

Powercabファミリーの製品は、モデルとするギターのシグナルチェーンを忠実に再現するために設計された、内蔵パワーアンプを備えたアクティブ・スピーカーキャビネットです。各スピーカーは、12インチの低域ドライバーと1インチの高域コンプレッション・ドライバーが同軸仕様が構成されています。このスピーカーシステムは、その明確なコンセプトに忠実に設計されています。PAのように大音量を均一に出力しながらも、ギタースピーカーの速くて中域にフォーカスしたトランジェント特性と自然なブレイクアップを提供するコンセプトです。この目的を達成するため、Eminence社とCelestion社が仕様に沿って製作したコンポーネントを搭載したカスタムドライバーを採用しました。

アンプ

Powercabファミリーの製品は特別に設計されたクラスDアンプを使用しています。これらのアンプは最大のスループットと効率性を達成するために、スピーカーへ最適なワット数を提供するように特別に設計されています。受動冷却設計により、ノイズの原因となる冷却ファンが不要であると共に、Powercabの上部にかさばるヒートシンクも不要になっています。

特徴



Powercab 112

- Line 6のデザインによるEminence®社製12インチ同軸ドライバーおよびカスタムスピーカー
- 2基のCelestion® CDX 1-1010 高域コンプレッションドライバー搭載
- フルレンジ、フラットレスポンス(FRFR)モード
- 6種類の「リアル感覚」なギターSpeakerモード
- 250W RMS
- 125dB (C) SPL @ 1m
- ライン入力コンビネーション (バランス、6.3mm TRS、XLR)
- XLRライン出力
- ハイパスフィルター・スイッチ
- グラウンドリフト・スイッチ



Powercab 112 Plus (追加機能)

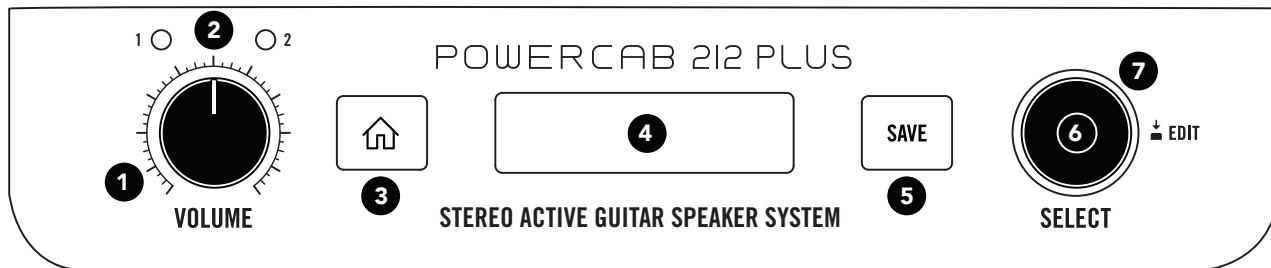
- 追加のライン入力コンビネーション
- L6 LINK/AESイン/アウト
- ステレオ構成用2つのデジターチェーン・ユニット
- MIDI IN/OUT
- 128種類のユーザー・メモリー
- 自動減光機能付高輝度ディスプレイ
- USBオーディオ・インターフェース機能 (ステレオ、低レイテンシー)
- 最大128のユーザー・インパルス応答に対応
- ファームウェア・バージョン2.0による6種類の追加スピーカーモデル




Powercab 212 Plus (追加機能)

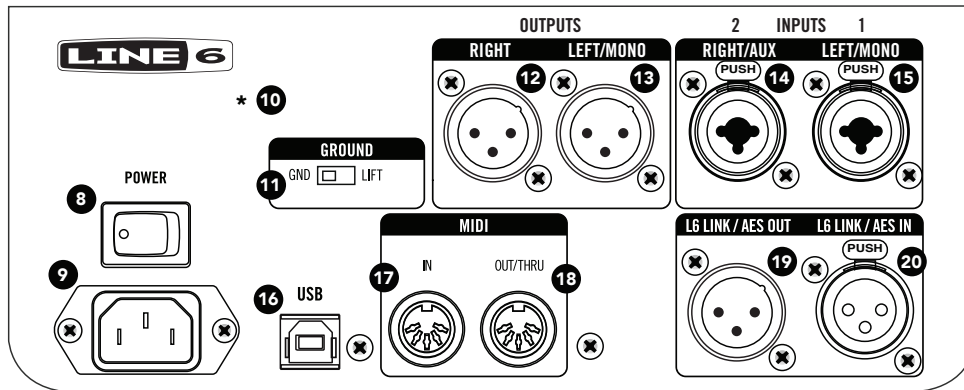
- 500W RMSトータル、ステレオアンプ
- 131dB (C) SPL @ 1m
- Line 6のデザインによる2基のEminence社製12インチネオジウム同軸カスタムスピーカー
- 2基のCelestion CDX 1-1010 高域コンプレッションドライバー搭載
- 2つのスピーカーモデルまたは2つのユーザーIRを同時にブレンド
- 合計12種類のスピーカーモデルの使用を可能にするファームウェア・バージョン2.0を実装

Powercab 112 Plus & 212 Plus - トップパネル・コントロール




- 1. VOLUMEノブ** - パワーアンプからスピーカーシステムへの出力レベルをコントロールします。12時の位置が最大出力から-6dBのレベルです。
- 2. シグナルLED** - システムを通して処理されたサウンドレベル全体を示します。緑色は入力信号が存在すること、黄色は信号が上限に近づいていること、赤色はクリッピングを示します。クリッピングが生じた場合は、元となる機器(例:アンプモデリング機器)の出力レベルを下げてください。シグナルLEDが黄色になると、Powercabスピーカーシステムは最もリアルで非線形且つ自然なブレイクアップ特性を表現します。
注意: Powercab 112 Plusには1つのシグナルLED、Powercab 212 Plusには2つのシグナルLEDがそれぞれ搭載されています。
- 3. HOMEボタン** - 操作に迷った場合は、このボタンを押してホーム画面に戻るか、ボタンを2秒間長押ししてグローバル設定へ進んでください。[17ページ参照](#)。
- 4. バックライト・ディスプレイ** - このバックライト・ディスプレイがホーム画面上に現在のプリセットを表示します。プリセット編集(Edit Preset)とグローバル設定(Global Settings)画面もここに表示されます。画面のバックライトは、何も操作が行われない状態がしばらく経過すると自動的に暗くなります。
- 5. SAVEボタン** - 使用中のプリセットの設定を変更した際は、SAVEボタンを押してその変更内容を確定、リネームまたは新しいプリセット・ロケーションへコピーします。
- 6. SELECTノブ** - このノブを操作してプリセットやパラメーター値を変更します。ホーム画面からこのノブを回してプリセットを一巡します。ノブを押してパラメーターを選択し、ノブを回して現在ハイライトさせたパラメーター値を編集します。
- 7. LEDリング** - このリングは、現在のプリセットに割り当てられたパラメーターの色で点灯するため、一目で確認することができます。
 Powercab 212 Plusでは、Speaker 1とSpeaker 2を示すそれぞれのLEDに2種類の色を選択することができます。
ヒント: 遠くからでも視認できるように、ユーザー・プリセットに異なる色を割り当ててください。LEDリングは、何も操作が行われない状態がしばらく経過した後、自動的に暗くなります。

Powercab 112 Plus & 212 Plus - リアパネル・コントロール




Powercab 212 Plusリアパネル (以下のように、112 Plusの特徴は僅かに異なります)

8. **POWERスイッチ** - Powercabの電源をオン/オフにします。
9. **ACイン** - 同梱のIEC電源ケーブルをここに接続します。
10. ***LOW CUTスイッチ** -  Powercab 112 Plusのみ 80Hzローカットフィルターのオン/オフを切り替えます。不要なローエンドの震動を取り除く際に便利です(XLRまたはL6 LINK - AES/EBU出力の信号には適用されません)。

*  Powercab 212 Plus上でGlobal Settingsの中のLow Cut機能にアクセスします。

11. **GND/LIFTスイッチ** - XLR出力端子で接地回路をリフトさせるかどうかをコントロールします。不要なハムを発生させる原因となる接地ループを確認する際に便利です。
12. & 13. **XLR出力端子** - ミキサーの入力へ接続します。出力レベルをラインレベル(+13dBu)またはマイクレベル(0.0dBu)に切り替え可能です。[23ページ](#)参照

 Powercab 112 PlusのXLR出力端子は1つだけです。

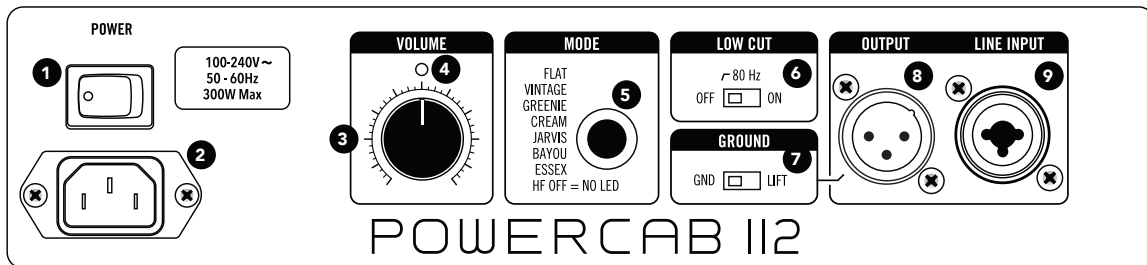
注意: XLR出力は48Vファンタム電源によって影響を受けることはありません。

14. & 15. **RIGHT/AUXとLEFT/MONO入力** - お手持ちのアンプモデラーのラインレベル出力をこれらのバランス6.3mmTRS/XLR入力に接続します(例:Line 6 Helix®またはPOD®デバイス等)。Helixデバイスは**ラインレベル**に設定します。POD® HDデバイスは**+4dB**ラインレベルに設定します。一部のペダルタイプのプリアンプは、これらの入力に見合うラインレベルを確保するため、出力のブーストが必要になる場合があります(最大+13dBu)。
16. **USB-B端子** - Powercab Editソフトを使用してIRをロードする場合、プリセットのカスタマイズやバックアップ、復元をする場合、またはLine 6 Updaterソフトを使用する場合は、MacまたはPCと接続してください。両方ともline6.com/software/から無償で入手可能です。
17. & 18. **MIDI機器と接続することで、プログラム・チェンジやコンティニュアス・コントロール・メッセージの送受信を行います。**2台のPowercabのパッチ変更をするには2台目をここに接続します。

19. **L6 LINK, AES/EBU OUT** - 1台のPowercab Plusともう1台のPowercab Plusを接続すれば、自動的にステレオペアとして設定されます。詳細は23ページをご覧ください。

20. **L6 LINK, AES/EBU IN** - L6 LINKは、HelixとPowercab Plus機器間のデジタルオーディオネットワークを簡単に提供し、リモート制御も可能です。あるいは、AES/EBU (110Ω XLR) ケーブルで AESに対応するアンプモデラーとデジタルに接続することもできます。詳細は23ページをご覧ください。

Powercab 112 - リアパネル・コントロール



1. **POWERスイッチ** - Powercab 112の電源をオン/オフにします。
2. **AC イン** - 同梱のIEC電源ケーブルをここに接続します。
3. **VOLUMEノブ** - パワーアンプからスピーカーシステムへの出力レベルをコントロールします。12時の位置が最大から-6dBのレベルです。
4. **シグナルLED** - 明るい緑色は入力信号が存在すること、黄色は信号がユニットの出力限界に近づいていることを意味し、赤色はデジタル・クリッピングを示します。クリッピングが生じた場合は、元となる機器(例:アンプモデリング機器)の出力レベルを下げてください。信号LEDが黄色になると、Powercabのスピーカーは最もリアルで非線形なブレイクアップ特性を表現します。
5. **MODEボタンとLEDリング** - ボタンを押して、異なるSpeakerモードを一巡して表示させます。ボタンのLEDの色が、現在使用しているSpeakerモードを示します。12ページ、「[プリセットパラメーター](#)」参照
注意: HF OffはNaturalスピーカー・モデルと同様です。
6. **LOW CUTスイッチ** - 80Hzローカット・フィルターのオン/オフを切り替えます。不要なローエンドの振動を取り除く際に便利です(XLR出力には適用されません)。

7. **GND/LIFTスイッチ** - XLR出力端子で接地回路をリフトさせるかどうかをコントロールします。不要なハムを発生させる原因となる接地ループを確認する際に便利です。
8. **XLR 出力端子** - アナログミキサーの入力へ接続します。この出力は最大0.0dBuのマイクレベルです。
注意: このXLR出力は48Vファンタム電源によって影響を受けることはありません。
9. **INPUTコンボ端子** - お手持ちのアンプモデラーのライン・レベル出力をこのバランス6.3mmTRS/XLR入力に接続します(例:Line 6 HelixまたはPODデバイス等)。Helixは**ライン・レベル**に設定してください。POD HDは**+4dB**に設定してください。一部のペダルタイプのプリアンプは、これらの入力に見合うライン・レベルを確保するため、出力のブーストが必要になる場合があります(最大+13dBu)。

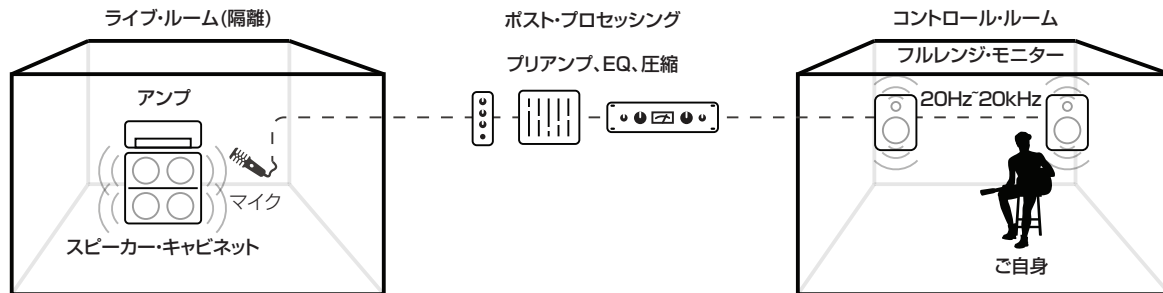
スピーカーモデル vs キャビネットモデリング

スピーカーモデルは、聴き慣れた色づけされていないギターキャビネットのサウンドをシグナル・プロセッシングによって取り込むLine 6独自の手法で、異なる種類のスピーカーをバーチャルに「組み込む」ことができます。各スピーカーモデルは、まるでギタースピーカーと接続されているようなサウンドを再現するように設計されています。

恐らく、「でも、それってキャビネット・モデルと同じじゃない!？」と思われるかもしれませんが、**違います!**キャビネット・モデルは、各スピーカーにマイク立てた状態のスピーカーキャビネットのサウンドで、通常マイク・プリアンプや他のプロセッシングが施されるため、スタジオ内でキャビネットをマイク録りする場合と同様に、スタジオモニターやヘッドフォンに送られます(以下の図を参照してください)。

一方スピーカーモデルは、キャビネット内で共鳴する実際に組み込まれたスピーカーを使用して、異なるスピーカーそれぞれにマッチするように周波数特性だけを変更します。結果として、前に立っていると、スピーカーの種類は変化しても、従来のアンプと同じような感覚が得られます。最もリアルな体験ができるよう、Powercabはマイクとスタジオ・プリアンプを通した、より大きな(4x12)キャビネットのサウンドをエミュレートするのではなく、むしろ同じサイズ(1x12または2x12)のハイパワーなキャビネットのようなサウンドを出せるように設計されています。

フルレンジ・フラットレスポンスとキャビネットモデリング/インパルス・レスポンス方式

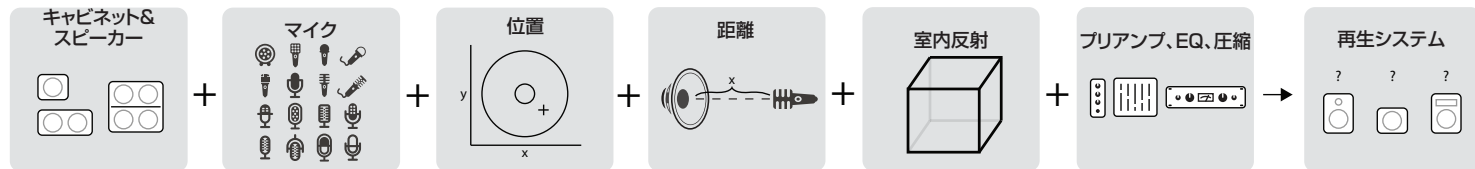


長所: 聴衆が聴くものと同じものが聴こえます。

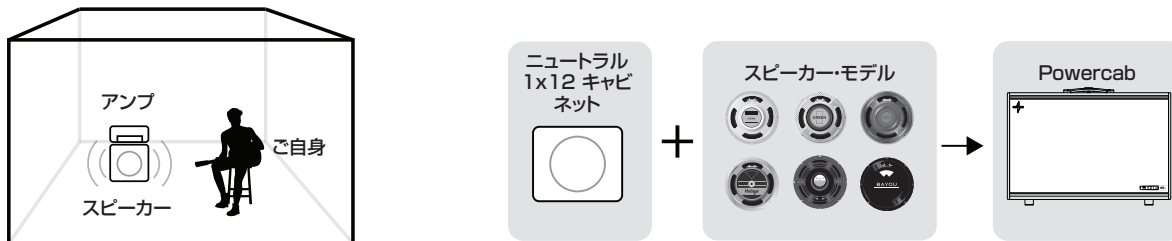
短所: それ自体ではアンプのサウンドと雰囲気は得られません。

キャビネット・モデリング

インパルス・レスポンス



室内アンプ・サウンドを出力するスピーカー・モデリング方式




長所: アンプを通して演奏しているようなサウンドと前に立っているような感覚が得られます。

短所: 聴衆は自分が聴いているものと全く同じものを聴くことはできません。

Powercabスピーカー・モデル

これらのスピーカー・モデルの利点を十分に生かすために、モデラーやアンプ・シミュレーション・タイプのペダルのキャビネット・エミュレーションは無効に設定してください。後はPowercabに任せれば、スピーカー・サウンドを正確に再現して存分に雰囲気を楽しむことができます。更なる利点として、これらのモデルは同軸スピーカーシステムの設計により、いかなる配置であっても、従来のマイクを通じて捕えることができる様々なスピーカー・トーンが供給できることです。

 Powercab 112には、**HF OFF/Natural**に加え、下記のリストに記載されている最初の6つのスピーカー・モデルが含まれています。エンドユーザーがスピーカー・モデルを加えたり変更したりすることはできません。

VINTAGE - 不変のCelestion Vintage 30をベース*としています。皮肉にもより「モダン」なトーンに使用されています。

GREEN - Celestion Greenback スピーカーをベース*としています。クラシックなロックのトーンを再現するために、決まってビンテージ Marshall® Plexi アンプとペアで使用されています。

CREAM - Celestion G12M-65をベース*としています。明るいトップエンドが特徴のセラミック C12N をよりハイパワーにしたバージョンです。


JARVIS - Jensen® P12Qをベース*としています。豊かさやクリーンなトーンを求めてか、一般的にFender®アンプとペアで使用されています。

BAYOU - Eminence Patriotシリーズ Swamp Thang™をベース*としています。クラシックなアメリカン・トーンの押し強いボトム・エンドは、ブルースやジャズにぴったりです。

ESSEX - Blue Bellスピーカーをベース*としています。多くの場合、「チャイミー」なトーンには Vox® アンプとクラス A スタイルのアンプとペアリングされています。

HF OFF /Natural - 高域コンプレッション・ドライバーを無効にし、またEQ等のエフェクトも一切かけないPowercabスピーカーのナチュラルな音と質感です。

*11ページ、「米国における登録商標」参照本書に記載されている各製品名は各社が所有する商標であり、Yamaha Guitar GroupとLine 6のどちらとも関連や協力関係はありません。ここに記載されている製品名、情報及びイメージは、Line 6のサウンドモデルの開発中に研究した特定の製品を明らかにする事を唯一の目的としています。

 以下のモデルはPowercab 112 Plusと212 Plusを実行するファームウェアバージョン2.0以降でのみ使用することができます。ファームウェアを更新する際は、line6.com/software/からLine 6 Updaterアプリをダウンロードしてください。

DINO - Eminence Cannabis Rex™ をベース* にしています。ユニークにも大麻繊維をスピーカーコーンの素材としています。Cannabis Rexはスモーキーでスムーズな高音域、レンジも広く、クリーンさ、まろやかさも太いノックリとした音質です。

LECTO - Electro-Voice® EVM 12L を* ベースにしています。プロフェッショナルな正確さ、オーバードライブを生かしパンチの効いたトーンと明瞭なクリーンさを求めて設計されています。これらはクラシックなMesa/Boogie®サウンドの重要な要素です。

HERALD - Celestion G12H(55) Heritage を* ベースにしています。オリジナルのG12M Greenbackより更に重い磁石を搭載したこのスピーカーは、オリジナルG12Hのサウンドを再現します。

BROWN - Celestion G12 EVH® を* ベースにしています。Greenback 20がEddie Van Halenの紛れもないサウンドで不可欠な役割を果たした間、このスピーカーは60年代バージョンのGreenbackを基に、彼のシグネチャー・アンプとして使用されていました。

SHADE - Mesa/Boogie Black Shadow C90 を* ベースにしています。イギリスのCelestion社によってカスタマイズされたMesa/Boogie。このスピーカーはタイトでコントロールされたローエンド、アグレッシブな中域のアタックと力強い高域のベース/中低域のパンチを供給します。これらが多くのMesa/Boogieアンプの特徴です。

JETSON - Jensen C12K を* ベースにしています。C12KはよくFender®アンプとペアで使用され、ヘヴィな中域、そして重厚さ、ストレートでわずかにダークなトーンです。大胆でヘヴィにオーバードライブさせたトーンを醸し出すこともできます。


米国における登録商標

*本書に記載されている各製品名は各社が所有する商標であり、Line 6との関連や協力関係はありません。これら各社の商標は、Line 6のサウンドモデルの開発中に研究対象となった製品の音質やサウンド識別する目的でのみ使用しています。CelestionはKH Technology Corp. Eminenceの登録商標であり、Swamp ThangおよびCannabis RexはEminence Speaker, LLCの登録商標です。Marshallは Marshall Amplification Plcの登録商標です。Jensenは Electronics Trademark Holding Company LLCの登録商標です。Voxは Vox R&D Limitedの登録商標です。EVHは E.L.V.H., Inc.の登録商標です。Electro-Voiceは Electro-Voice, Inc.の登録商標です。Mesa/Boogieは Mesa/Boogie, Ltdの登録商標です。Fenderは Fender Musical Instruments Corp.の登録商標です。

ユーザー・プリセット







Powercab Plusシステムにはカスタマイズしたプリセットを作成し、保存する機能が含まれています。プリセットには、使用するSpeakerモード(Flat, SpeakerまたはIR)、LEDの色やパラメーターの設定を含むスピーカートーンを保存し、リコールすることができます。プリセットを変更する場合は**SELECT**ノブを回します。プリセットを編集する場合はSELECTノブを押します。プリセットは、L6 LINKやMIDIによる選択やオートメーションも可能です。

プリセット・パラメーター

 Powercab 212 Plusでは、ユニットを正面にした状態で**Speaker 1**は左側のスピーカーを指し、**Speaker 2**は右側のスピーカーを指します。ステレオ入力を接続すると、Powercab 212 Plusは左チャンネルのオーディオをSpeaker 1へ送信し、右チャンネルのオーディオをSpeaker 2へ送信します。これは**Stereo Width**パラメーターが0%に設定されている場合を除きます(17ページ、「グローバル設定(Global Settings)」参照)。モノ入力では、Powercab 212 Plusはそのモノ・オーディオを両方のスピーカーへ送ります。

1. プリセット・パラメーターを一覧する場合は、SELECTノブを押します。
2. SELECTノブを回してパラメーターリストを上下にスクロールさせます。SELECTを押すと、リストのスクロールと設定値が切り替わります。





注意:  で示されている機能はPowercab 212 Plusでのみ使用可能です。

  エディット・セッティング					
名称	値	デフォルト	MIDI CC	CC値	機能
Mode	Flat Speaker Dual Speaker  User IR Dual User IR 	Flat	CC 20	0 = Flat 1 = Speaker 2 = User IR 3 = Dual Speaker  4 = Dual User IR 	対応するモード(Flat, Speaker, User IR、加えてPowercab 212 Plus上のDual Speaker及びDual User IR)から選択し、使用可能なモード・パラメーターへアクセスします。
FLATモード・パラメーター	フルレンジ・フラットレスポンスは、実質的にFOHミキサーに送られる信号と同等です。このモードは瞬時にプレイしたいような環境に最適で、アンプモデラーが全てを行います。ダイレクトにPAやアクティブモニター、レコーディング・インターフェースに接続する場合に最適なモードです。キャビネット・エミュレーションを含んだギター・シグナルやBGM/バックトラックの再生に適したフラットな周波数特性を提供します。				
Voicing	FRFR LF Flat LF Raw	FRFR	CC 21	0 = FRFR 1 = LF Flat 2 = LF Raw	スピーカーシステムの最終的なEQ後処理とクロスオーバーの設定を選択します。

  **エディット・セッティング**


名称	値		デフォルト	MIDI CC	CC値	機能	
SPEAKERモード・パラメーター	本物のギタースピーカーのように反応することを目的としているため、従来通りの室内でアンプを鳴らした感覚が得られます。このモードは、以下の調節可能なパラメーターと共に選択したスピーカーモデルの異なるトーン特性をシステムの同軸ドライバーへ送ります。						
Speaker 1	Vintage Green Cream Jarvis Bayou Essex Natural	Dino Lecto Herald Brown Shade Jetson	Vintage	CC 22	0 = Vintage 1 = Green 2 = Cream 3 = Jarvis 4 = Bayou 5 = Essex 6 = Natural	7 = Dino 8 = Lecto 9 = Herald 10 = Brown 11 = Shade 12 = Jetson	どのスピーカーモデルをSpeaker 1へ適用するかを選択します。
 Speaker 2	Speaker 1と同じ値		Vintage	CC 102	0~12 Speaker 1と同じMIDI CC値	どのスピーカーモデルをSpeaker 2へ適用するかを選択します。	
Mic Model 1	57 Dyn 409 Dyn 421 Dyn 30 Dyn 20 Dyn 121 Ribbon 160 Ribbon 4038 Ribbon	414 Cond 84 Cond 67 Cond 87 Cond 47 Cond 112 Dyn 12 Dyn 7 Dyn	57 Dyn	CC 23	0 = 57 Dyn 1 = 409 Dyn 2 = 421 Dyn 3 = 30 Dyn 4 = 20 Dyn 5 = 121 Ribbon 6 = 160 Ribbon 7 = 4038 Ribbon	8 = 414 Cond 9 = 84 Cond 10 = 67 Cond 11 = 87 Cond 12 = 47 Cond 13 = 112 Dyn 14 = 12 Dyn 15 = 7 Dyn	Speakerモードの使用中に、XLR左出力信号へ当てるマイクモデルを選択します。Powercabの前に配置したマイクタイプをエミュレートすることが目的です。
Mic Distance 1	1"~12"		1.5"	CC 24	0~22	シミュレーションさせたマイクとキャビネット間の距離を設定します。	
 Mic Model 2	Mic Model 1と同じ値、XLRアウト右用		57 Dyn	CC 103	0~15 Mic Model 1と同じMIDI CC値	Mic Model 1と同じ機能、XLRアウト右用	
 Mic Distance 2	1"~12"		1.5"	CC 104	0~22	Mic Distance 1と同じ機能、XLRアウト右用	

  **エディット・セッティング**

名称	値	デフォルト	MIDI CC	CC値	機能
USER IRモード・パラメーター	このモードでは、マイクを使用したキャビネットのサウンドを再現する、他社製のキャビネットのシミュレーション(インパルス・レスポンス)を使用することができます。16ページ、「インパルス・レスポンス」と16ページ、「Powercab Editソフトウェアについて」を参照してください。				
IR (1)	IRメモリー0`127	0	CC 25	0`127	どのユーザーIRをSpeaker 1へ適用するかを選択します。画面に選択したIRの名称が表示されます。
 IR (2)	IRメモリー0`127	0	CC 105	0`127	IR (1)と同じ機能
一般的プリセット・パラメーター	以下のパラメーターはメモリー内でどのモードが選択されているかに関わらず使用することができます。				
Low Cut 1	Off 20Hz~500Hz	Off	CC 26	0`127	低域が強すぎてブーミーだったりこもって聴こえる場合はローカット・フィルターを適用します。
High Cut 1	Off 500Hz~20kHz	Off	CC 27	0`127	ギタースピーカーは、一般的にフルレンジ再生システムの範囲以下で高周波数をロールオフします。トーンが荒く耳障りで不自然ですか？ハイカットフィルターをかけて高い周波数を通減してください。
 Low Cut 2	Off 20Hz~500Hz	Off	CC 106	0`127	Low Cut 1と同じ機能
 High Cut 2	Off 500Hz~20kHz	Off	CC 107	0`127	High Cut 1と同じ機能
Level 1	-60.0dB~+6.0dB	0.0dB (Flat) -15.0dB (Speaker) -18.0dB (User IR)	CC 28	0`127	使用中のプリセットのボリュームをコントロールし、プリセット間のレベルを調節して合わせるすることができます。IRを使用している場合、デフォルトは-18.0dBとなり、IRファイルに共通したより高い振幅を補います。Flatモードの使用で、最大マージンは0.0dBに設定されます。
 Level 2	-60.0dB~+6.0dB	Level 1と同じ デフォルト	CC 108	0`127	Level 1と同じ機能



エディット・セッティング


名称	値	デフォルト	MIDI CC	CC値	機能
Color 1	Auto White Red Blue Green Yellow Cyan Magenta Off	White	CC 29	0 = Off 1~18 = White 19~36 = Red 37~54 = Blue 55~72 = Green 73~90 = Yellow 91~108 = Cyan 109~126 = Magenta 127 = Auto	SELECTノブのLEDリングの色はカスタマイズすることができます。Helixやその他のMIDI機器からオートメーションやリモートコントロールする場合に、どのスピーカーモデルやIRが選択されているかを識別する際に便利です。
 Color 2	Color 1と同じ値	White	CC 109	Color 1と同じCC値	Color 1と同じ機能

インパルス・レスポンス

Powercab Plusシステムを利用すれば、128のインパルス・レスポンス (IR) ファイルをインポートして、より多くのスピーカーキャビネット・モデルを使用できるようになります。デフォルトにより、IRのLine 6 Allureパックが既に搭載されていますが、他社のIRをご自分で選んで読み込むこともできます。HelixまたはPODデバイスからDSP消費量を減らすことで、モデラーにエフェクトを追加するためのスペースを確保するのも良い方法です。

Powercab Plusシステムは、Powercab Editソフトを使用することでIRをインポートすることができます(次のセクション参照)。そのIRプロパティ(48kHz、24ビット、モノ、2048サンプル)に互換性があれば、どの.wavファイルIRでもインポートすることができます。これはとても便利ですが、思いがけない結果を招く場合もあるので、.wavファイルなら何でもIRとしてロードできるわけではないことに注意してください。SysExファイルはサポートされていません。

User IRステレオモードで使用した場合、サンプル長は綿密に1024サンプルに短縮されます。

 **ヒント:** アコースティックギターのIRをロードして、その音質を増強させることもできます。ラインレベルの入力信号を接続する際は、適切なインピーダンスを得るためにプリアンプを使用することをお勧めします。

Powercab Editソフトウェアについて

MacとPC用の無償の編集ソフトウェアPowercab Editを使用することで、プリセットのカスタマイズと管理を行い、Powercab Plusへ自身のIRをロードすることができます。最新のPowercab Editアプリケーション・バージョンはline6.com/software/から入手することができます。お手持ちのコンピュータへのこのアプリケーションのダウンロードが終了した後、アプリケーションを起動させてインストールの手順に従って操作してください。

Powercab PlusをコンピュータのUSBポートへ接続し、Powercab Editアプリケーションを起動します。128個のメモリーのリストが表示され、更に全てのパラメーターは調整して利用することができます。**Impulses**タブをクリックしてIRの確認と管理を行います。IRを1つまたは複数追加したいという場合は、IRスロットを選択して**Import**をクリックします。

USBオーディオ

Powercab Plusシステムは、MacまたはPC用のUSB 2.0、低レイテンシー、ステレオ入力/出力、16ビット、44.1kHzまたは48kHz、オーディオ・インターフェースとして機能し、更にはiPadとiPhoneモバイル機器のオーディオ・インターフェースとして使用することもできます。* これらは全ての主要DAW ソフトウェアに対応しています。



***注意:** iPad & iPhoneとの接続には、Appleカメラ・コネクション・キットのUSBアダプター (別売り)が必要です。MacまたはWindows®コンピュータ、Apple iPadまたはiPhone モバイル機器を使用する場合、ドライバーをインストールする必要はありません。(Windows低レイテンシーオーディオ性能に関しては **ASIO Driver**セクションを参照してください。)

このUSBオーディオ機能により、ご自身のバックingtトラック、YouTube™、iTunesと共にジャム演奏を行ったり、お手持ちのDAWソフトの中に高品質なオーディオを録音することができます。DAWソフトのトラックをPowercab PlusのUSB 1/2ソースから録音するように設定することで、DAWトラック内にPowercabからの処理済みの信号をキャプチャーできます。この場合、入力された信号は、ソフトウェアにルーティングされる前にPowercab Plusの出力から聴くことができるため、ゼロレイテンシーモニタリングが可能です。

ASIOドライバー (Windowsのみ)

Powercab Plusを、Windows DAWアプリケーション用のオーディオインターフェースとして使用する際は、line6.com/software/から無償で入手可能なLine 6 Powercab ASIO **ドライバー**をダウンロード及びインストールすることをお勧めします。このASIOドライバーは、DAW録音に不可欠な、優れた低レイテンシーUSBオーディオ性能を発揮します。Powercab ASIOドライバーを使用する前に、DAWソフトウェアを設定することも必要です。この設定は通常、DAWソフトウェアのプリファレンスの中、またはオプションダイアログで見つかります。ソフトウェアの説明書を参照してください。

USB Audioモード

Powercab Plusシステムは、コンピュータまたはモバイルデバイス・インターフェースとして使用するために2つの異なるUSBモードを提供します。これらのオプションは**Global Settings**からアクセスすることができます (次のセクション参照)。

Normal - このモードでは、入力されたUSBオーディオは未処理のままPowercab Plusのスピーカーシステムへ直接ルートされて再生されます。



Processed - このモードでは、入力されたUSBオーディオは Powercab Plusによってプロセッシングされます。Line 6 Helix NativeプラグインやPOD Farmアプリケーションのようなアンプ・モデリング・ソフトウェア用のコンピューター・オーディオ・インターフェースとして使用すると、より多くのフレキシビリティを追加します。

グローバル設定(Global Settings)


これらのグローバル・パラメーターを使用することで、練習、ステージ、あるいはスタジオで使用する等、特定のニーズに合わせてPowercab Plusシステムを最適化することができます。これらの設定は持続性があり、(自動的に保存されますが)プリセットデータの一部ではありません。

1. **Global Settings**を見る場合は**HOME**を長押しします。
2. **SELECT**ノブを回して**Global Settings**リストを上下にスクロールさせます。SELECTを押すと、リストのスクロールと設定値が切り替わります。

注意: で示されている設定はPowercab 212 Plusでのみ使用可能です。

🔊🔊 グローバル・セッティング						
名称	値	範囲	デフォルト	MIDI CC	CC値	機能
Input 1/L Gain	dB	-96.0~+12.0	0.0	CC 1	0-127 100 = 0.0dB	Input 1 (Left/Mono)用調整可能入力ゲインレベル。
 Input 1/L Level	Line Instrument		Line	CC 30	0~63: Line 64~127: Instrument	Input 1の入力レベルとインピーダンスをコントロールします。ギターまたはペダルを接続する場合は、Instrumentインピーダンスを使用します。ラインレベル出力をサポートするモデラーにLineレベルを使用します。
Input 2/R Gain	dB	-96.0~+12.0	0.0	CC 2	0-127 100 = 0.0dB	Input 2 (Right/AUX)用調整可能入力ゲインレベル。
 Input 2/R Level	Line Instrument		Line	CC 31	0-63: Line 64~127: Instrument	Input 2の入力レベルとインピーダンスをコントロールします。ギターまたはペダルを接続する場合は、Instrumentインピーダンスを使用します。ラインレベル出力をサポートするモデラーにLineレベルを使用します。

  グローバル・セッティング

名称	値	範囲	デフォルト	MIDI CC	CC値	機能
Input 2/R Mode	Normal Monitor USB		Normal	CC 3	0°40: Normal 41°80: Monitor 81°127: USB	Normal: 入力を処理し、XLR出力を通じて信号をルートさせます。 Monitor: 信号処理は行わず、信号はXLR出力ヘルートされません。 USB: Input 2はUSB 1/2入力ヘルートされ、Helix Nativeのようなギターアンプモデリングソフトと共に使用することができます。忘れずにDAWソフトウェア内の入力モニタリングを使用可能にしてトラックの録音に備えてください。19ページ、「Input 2 Monitorモード」も参照してください。
Link Inputs	Off On		On	CC 4	0°63: Off 64°127: On	両方の Input 1 & Input 2 ゲインレベルが同じ値に設定されるように選択します。
HF Trim	dB	-96.00+12.00	0.0	CC 5	0-127 100 = 0.0dB	高域コンプレッションドライバのゲイン調整
 Low Cut	Off On		Off	CC 111	0°63: Off 64°127: On	グローバル80Hzローカット (ハイパスフィルター) をスピーカー出力へ適用させます。
MIDI Channel	#	1°16, Omni	1			Powercab PlusがどのMIDIチャンネルにตอบสนองし、MIDI DINへ送信するかを、選択します (MIDI Thruが「On」に設定されている場合)。
MIDI Thru	Off On		On			入ってくるMIDIメッセージをユニットへ通すかどうかを決定します。
MIDI Receive	Off PC+CC PC Only CC Only		PC+CC			このユニットが、入ってくるMIDIプログラムチェンジ (PC)メッセージ、MIDI コントロールチェンジ (CC) メッセージに応じ、プリセットを変更するかどうかを決定します。
MIDI PC Send	Off PC		PC			ローカルPCチェンジイベントが発生した際に、その都度MIDI MIDI PCメッセージを送信するかどうかを決定します (ユニットでメモリー変更が行われた場合)。
MIDI Over USB	Off On		Off			MIDIデータを受信しUSBへ送るかどうかを決定します。
USB Mode	Normal Processed		Normal	CC 6	0°63: Normal 64°127: Processed	Normal: FRFRシステムへ直接再生する際に使用します。 Processed: USB信号をFlat, SpeakerまたはUser IRモードと共に処理します。

  グローバル・セッティング

名称	値	範囲	デフォルト	MIDI CC	CC値	機能
Direct Out Level	Line Mic		Mic			XLRダイレクトアウトの出力レベルをコントロールします。ノミナルライン入力にLineレベルを使用し、ミキサーまたはオーディオインターフェースのマイク・プリアンプに送信する場合は、Micレベルを使用します。
 Direct Out Mode	Mono Stereo		Stereo			XLRダイレクトアウトの出力レベルをコントロールします。ノミナルライン入力にラインレベルを使用し、ミキサーまたはオーディオインターフェースのマイク・プリアンプに送信する場合は、マイクレベルを使用します。
 Stereo Width	%	0-200	100	CC 110	0-100 50 = 100% 100 = 200%	0%でモノ、100%でノミナル、200%でエキストラワイドです。
Auto Dim	Off 5 seconds 10 seconds 30 seconds	Off 30秒間	10秒間			LCD画面とSELECTノブLEDにAuto-Dim機能を実行する際、どのくらいの時間経過でタイムアウトにするかを選択します。
Firmware Version	2.00.0					Powercabシステムの現在のファームウェアバージョン(x.xx.x)を表示します。
Factory Reset ファクトリーリセット						SELECT を押し、全てのファクトリー・メモリーとグローバル・セッティングの復元を実行します。

Input 2 Monitorモード

このモードは、ミキサーからPowercab PlusのInput 2へ返す、ボーカルまたは他の楽器を含む信号をモニターへ供給することが目的です。この信号はパワーアンプ・システムへ直接送られ、XLR出力へループして戻ることはありません。

Input 2/AUX USBモード

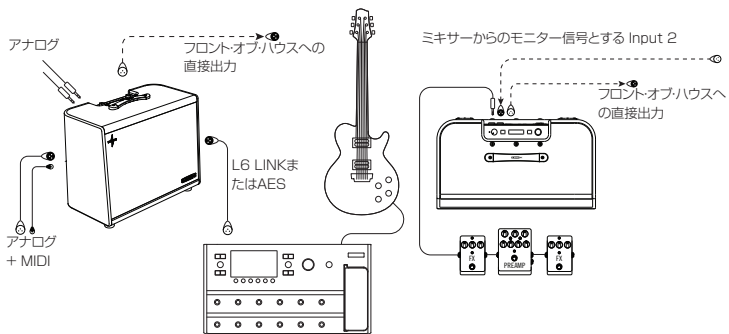
このモードはPowercab Plusを従来のオーディオ・インターフェースとして使用することが目的です。ギターを接続、またはラインレベルをInput 2 (Powercab 212 Plusの「Right/AUX」)へ供給すれば、DAWまたはオーディオ

ィオ・ソフトウェアを使用して信号を処理することができます。例えば、このモードでHelix Nativeプラグインを使用してギター信号を処理し、次にPowercab Plusアンプとスピーカーを通して再生することができます。これは、スピーカー/IR処理の有る無しに関わらず、Powercab Plus **USB Mode**のグローバル設定によって実行されます。この方法の場合、コンピュータの処理パワーとバッファ設定にもよりますが、信号が往復する分、多少のレイテンシーが加わります。

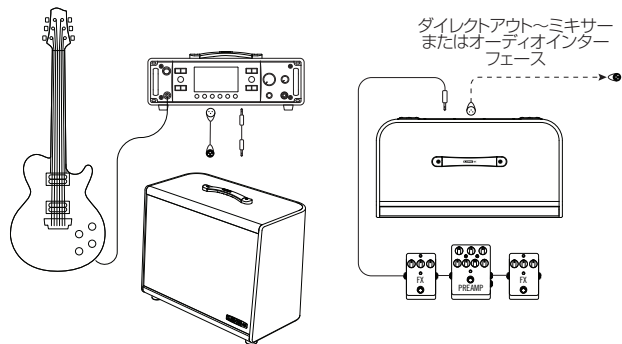
セットアップ例

PowercabまたはPowercab Plusシステムで、いくつかのセットアップ構成が可能です。

- モデラーのアナログ6.3mmまたはXLRモノ出力をPowercabのインプットに、またはモデラーのステレオ出力のL/RそれぞれをPowercabの各入力に接続します。
- アンプ・シミュレーションが含まれるエフェクトペダルを使用している場合は、それらを6.3mmオーディオケーブルでPowercabに接続します。
- L6 LINKまたはAES/EBUを経由させ、1つまたは2つのPowercab Plusとデジタル接続します。
- MIDIリモートコントローラーを使用する場合は、Powercab PlusのMIDI INへ接続してください(24ページ、「MIDI」参照)。
- ダイレクト信号は Powercabのアナログ XLR出力を使用してPAまたはミキサーへ送信してください。
- オプションとして、Powercab PlusコンボInput 2を使用してモニターフィードをミキサーから受信する、またはUSBオーディオインターフェースとして使用してギター信号をコンピュータで処理し、Powercabを通じて聴くことができます。

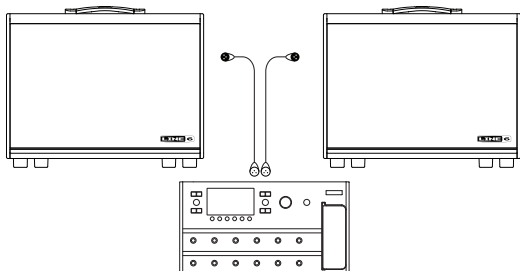


Powercab 112 アナログ・セットアップ



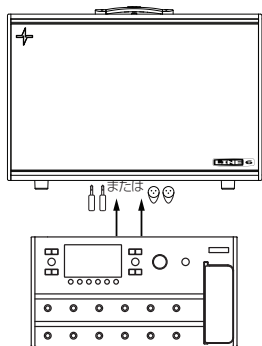
1. モデラーあるいはプロセッサーからの**6.3mm**または**XLR**出力をPowercabのコンボ入力へ接続します。
2. オプション: **XLR**ケーブルをPowercabの出力に接続してミキサーまたは録音インターフェースへ送信します。スピーカーモデルを使用した場合、出力信号にはSM57マイクモデルが加えられます。

Powercab 112または112 Plusアナログ・ステレオ・セットアップ



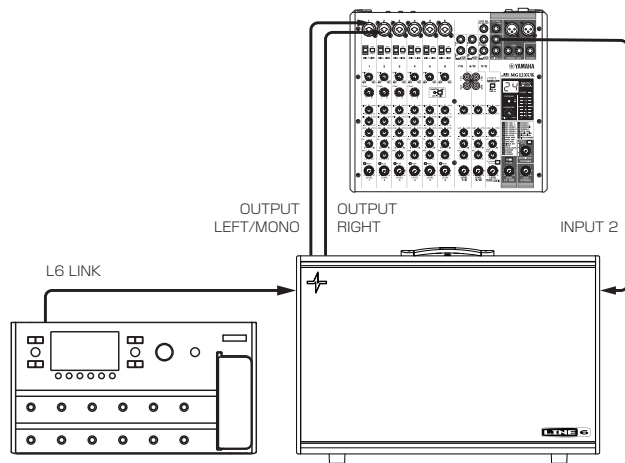
モデラー（またはステレオ・エフェクト機器）の左右アナログ 6.3mmまたはXLR出力をそれぞれ2台のPowercabデバイスへ別々に接続します。

Powercab Plusアナログ・セットアップ



1. モデラーあるいはプロセッサーからの6.3mmまたはXLR出力をPowercab Plusのコンボ入力へ接続します。
2. オプション: XLRケーブルをPowercab Plusの出力とミキサーまたはレコーディング・インターフェイスへ接続します。Powercab Plusメモリ内で設定可能なスピーカーモデルを使用した場合、出力信号にはユーザーが定義したマイクモデルが加えられます。

ボーカル用フロアモニターとして二役を担うPowercab Plus

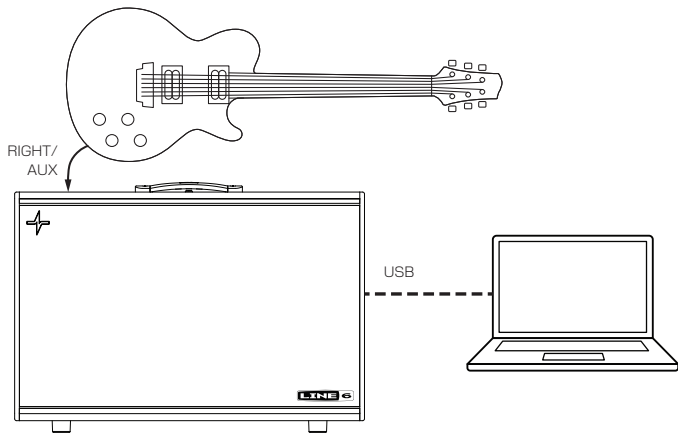


1. アナログまたはL6 LINK/AESケーブルを使用してモデラーをPowercab 112 Plusまたは212 Plusに接続します。
2. XLRまたは6.3mmバランスケーブルをミキサーまたはオーディオ・インターフェイスのAUXまたはMonitor Send（アクティブモニターへのルートに使用するよう）に接続します。
3. Powercab上でHOMEボタンを押し続けてGlobal Settingsを一覧し、Input 2 ModeをMonitorに設定します。これにより、別々のクロスオーバーとフィルターを使用してフラットレスポンス・フルレンジオーディオを、アクティブPAモニターのように、Powercabの内蔵アンプとスピーカーを通じて供給します。

Powercab Plus上のXLR出力はこの状態でも使用可能ですが、Input 1またはL6 LINKから処理済みの信号だけが出力されます。

🔊🔊 Powercab Plus USB処理 (インストルメント・レベル)

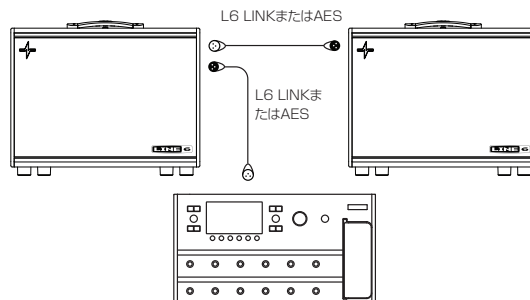
貸与、盗難、故障等、何らかの理由でモデラーがしようできない場合でも、Powercab Plusなら演奏できます! ハードウェアのモデラー専用機の代わりにコンピュータを使用すると、Powercab PlusはDSPでオーディオ・インターフェイスとしてスピーカー・モデリングとIR処理の二役をこなすことができます。これにより、DAWやHelix Nativeのようなプラグインと連携させてギター・信号のプロセッシングが可能です。



1. ギターを直接Powercab Plus Input 2 (Right/AUX)へ接続します。
2. USBケーブルをコンピュータまたはモバイル・デバイスへ接続します。
3. Powercab Plus上でHOMEボタンを押し続けてGlobal Settingsを一覧し、Input 2 ModeをUSBに設定します。
4. オプション: スピーカー・モデリング、またはIRを出力信号に加えたい場合は、USB ModeをProcessedに設定します。

注意: Powercab Plusを通じてトラックを再生する場合、USB ModeをNormalに設定すれば未処理で聴くことができます。

🔊🔊 Powercab Plusデジタル・ステレオ・セットアップ



1. L6 LINK/AESケーブルでHelix/POD HDデバイスとPowercab PlusのL6 LINK入力を接続します。*
2. L6 LINK/AESケーブルで1番目のPowercab Plus L6 LINK出力と2番目のPowercab Plus L6 LINK入力を接続します。
3. オプション: XLRケーブルをそれぞれのPowercab Plusの出力に接続し、ミキサーまたは録音インターフェイスに送ります。Powercab Plusメモリー内で設定可能なスピーカーモデルを使用した場合、出力信号にはユーザーが定義したマイクモデルが加えられます。

23ページ、「L6 LINK」参照。




*注意: 全てのL6 LINKとAESの接続に、110ΩタイプのXLRケーブルを使用してください。

L6 LINK

Powercab PlusデバイスはLine 6独自のL6 LINKテクノロジーにより、ケーブル1本でモノ/ステレオ・オーディオを繋ぐシンプルな接続で、離れた場所からLine 6 Helixデバイスと1台または複数のPowercab Plusシステム間のコントロールを可能にしています。これにより、Helixデバイスを介してPowercab Plusパラメーターを全体的にまたはHelixプリセット毎でも保存とリコールが可能になっています。

L6 LINKの機能には、Helixデバイス・ファームウェアをV2.80（またはそれ以降）に更新し、更にPowercab Plusシステム・ファームウェアをV2.00（またはそれ以降）に更新する必要があります。最良の結果を得るためにも、入手可能な限り、常に全てのLine 6デバイスを最新のファームウェア・バージョンに更新しておいてください。

 **注意:** 全てのL6 LINKとAESの接続に、110ΩタイプのXLRケーブルを使用してください。

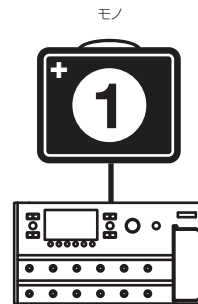
PowercabのL6 LINKを介したHELIXの使用

以下の手順でLine 6 Helixフロア、ラック、またはLTデバイスを設定し、Powercab PlusでL6 LINKの機能をリモートで操作します。

1. Helix上で、どのOutput > MultiまたはOutput > Digitalブロックからでも、**PAGE>**を一回押します。Powercab Remoteパラメーターが表示されます。
2. ノブ1 (Powercab Remote)を回して以下を選択します:
 - **Off** - リモート操作を行うPowercab Plusパラメーターは何も無いが、オーディオは依然として可能。
 - **Per Preset** - Powercab Plusパラメーターが保存され、Helixメモリと共にリコールされる。
 - **Global** - Powercab Plusパラメーターが保存され、全体的にリコールされる。
3. ノブ3 (Speaker Select)を回し、どのスピーカーを操作するかを選択する。Powercab 112 Plusが1台の場合は、これを「Speaker 1+2」のままにしておきます。

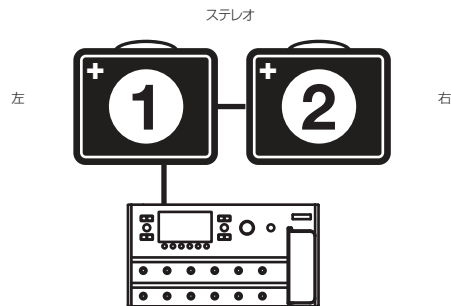
L6 LINKセットアップ例

Powercab 112 Plus1台 - モノ



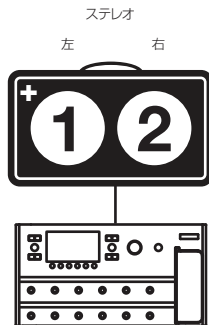
Powercab 112 Plusを1台で使用する場合、**Speaker 1**を選択することでHelixから操作することができます。

Powercab 112 Plusシステム2台 - ステレオ



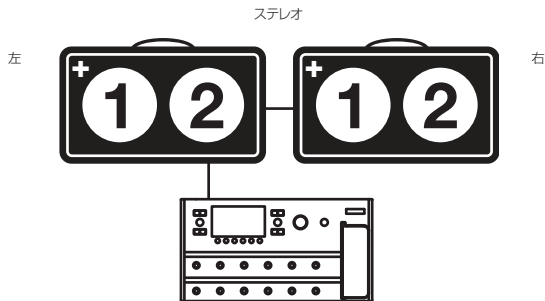
Powercab 112 Plusシステムを2台使用する場合、**Speaker 1**を選択してHelixから1台目を操作し、**Speaker 2**を選択して2台目を操作することができます。または**Speaker 1+2**を選択することで両方を1つとして操作することも可能です。

Powercab 212 Plus1台 - ステレオ



Powercab 212 Plusを1台で使用する場合、**Speaker 1+2**を選択することで両方のスピーカーをマッチさせることができます。或いは、**Speaker 1**または**Speaker 2**を選択することで個々に構成することも可能です。

Powercab 212 Plusシステム2台 - ステレオ



Powercab 212 Plusシステムを2台使用する場合、両方のスピーカーは**Speaker 1+2**を選択することでマッチさせることができます。或いは、**Speaker 1**または**Speaker 2**を選択することで個々に構成することができます。これらのどのSpeaker設定の場合でも、両方のPowercab 212 Plusシステムは設定をマッチさせてステレオのペアが作られます。

AES/EBU

Powercab Plusシステムは48kHzサンプルレートを伴うAES/EBUを受信することが可能です。チェーン内の1番目のPowercab PlusユニットによってAES信号が検知されると、そのチェーンは信号を分割し、1番チャンネルを1番目のPowercab Plusへ、2番チャンネルを2番目のPowercab Plusへ送信します。チェーン内のPowercab 112 Plusが1台のみの場合、信号はモノとして合わせられます。Powercab 212 Plusが1台のみの場合、信号はステレオになります。

MIDI

デフォルトにより、Powercab PlusデバイスはMIDIチャンネル1でMIDIを送受信するように設定されています。MIDIチャンネルを設定する場合は、MIDI over USBおよびその他の設定を無効にします。[17ページ](#)、[「グローバル設定\(Global Settings\)」](#)のMIDIオプションを参照してください。

MIDI プログラムの変更

Powercab Plusシステムは外部MIDI機器(またはUSB経由のMIDIソフトウェア)からの従来のMIDIプログラムチェンジメッセージにตอบสนองし、それに応じてプリセット000~127をリコールします。

MIDI CC

Powercab Plusシステムには様々な機能のためのMIDI CC値が保存されており、外部MIDIデバイス(またはUSB経由でのMIDIソフトウェア)を経由してのリモート操作が可能になっています。MIDI CCとCC値に関する詳細は[12ページ](#)、[「プリセットパラメーター」](#)と[17ページ](#)、[「グローバル設定\(Global Settings\)」](#)の表を参照してください。



輸入発売元
株式会社ヤマハミュージックジャパン
LM営業部 ギター営業推進課
〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11
TEL 03-5488-6195
line6.jp